



(*R*)-2-iodooctaneのヨード基は良い脱離基であるので、良い求核剤であるヨウ化物イオンの求核置換反応を受けて反転した(*S*)-2-iodooctaneが生成する。同様に(*S*)-体から(*R*)-体への求核置換反応も起こるが、それぞれの分子に対する求核置換反応の反応速度は同じであるので、次第に両者の比は1:1に近づいてゆく。つまりラセミ化する。